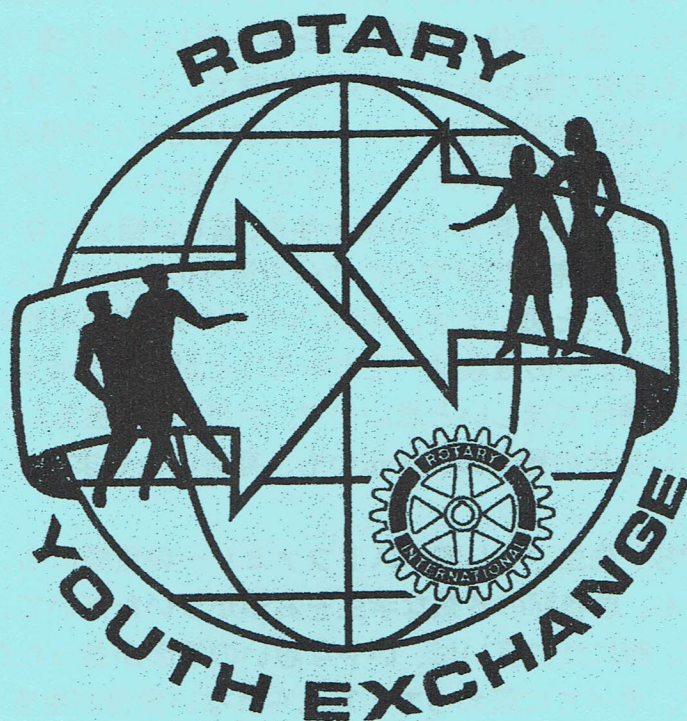


2016-2017年度 長期受入留学生

報告書



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640
国際ロータリー第2640地区

2017. 6. 18

青少年交換プログラム 長期受入留学生 修了証書授与式

2016-2017年度
2640地区 ガバナー 福井隆一郎

「ガバナー・メッセージ」

貴重な経験をされた交換留学生の皆様、如何でしたでしょうか。最初に、私から「おめでとう」と心からの祝辞を、申し上げたいと思います。それぞれの方によって違うかもしれませんが、留学を決意し、それを成し遂げた充実感は、他の誰よりも自慢できる自分自身に与えられた勲章であると思います。そしてその勇気を、自分の貴重な財産として、今後の人生に、結び付けていって欲しいと思います。今まで母国のご家族、友人に囲まれて過ごしてきた温かい環境から、全く自分一人になった事、そして全く違った環境で生活したこと、勉強したこと。どれも自分で勝ち取った貴重な経験で、人から与えられたものでもありません。毎日の生活の中では、多分苦しかったこと、泣いたことが多かったのではと思います。しかし毎日の生活を続ける内に、ホストファミリーや友人の一言が、限りなく勇気を与えてくれたことでしょう。そこから、自分に自信を与え、逞しい自分になっていったと思います。やがて、数カ月たちますと、完全に留学先の仲間や周りの人と同化して、楽しさが出てきて、この上ない喜びにあふれたと思います。異国にいながら、自分の世界ができて、留学の喜びが満ち溢れたと思います。この経験は一生忘れることがありません。今後も、ロータリーへの感謝も、ずっと持ち続けてほしいと思います。やがて、社会人になって、次の世代への恩返しとして、次の若い世代の留学のお手伝いも、期待いたします。

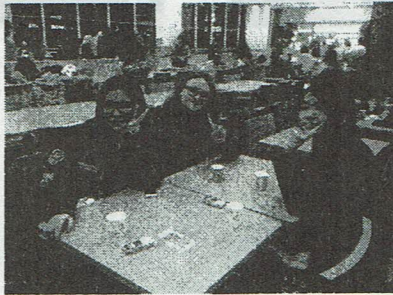
お世話になった学校、先生、そしてホストファミリーの皆様にも、心からお礼を申し上げなくては、なりません。思春期の多感な学生をお預かりいただき、気も一日も休まる日になかったと思います。時にはお互いに、いやな思いの場面があったかもしれません。しかし成長を見守る愛情が、すべてに伝わって、忘れられない愛情が生まれてきたことでしょう。

ロータリーの目指す若人への成長の期待は、職業を長年経験したロータリアンの熱い思いそのものです。特に山田青少年交換委員長はじめ、ご担当いただきましたロータリアンの皆様へは、なんとお礼を申し上げていいかわかりません。長期にわたるお世話を、細心の注意を払っていただき、交換学生に物心両面からのご支援に、敬意を表するしかありません。本当にありがとうございました。今後とも、国際ロータリー第2640地区が、長い絆で、素晴らしい青少年交換の事業が発展・継続していくことを祈念申し上げます。ありがとうございました。

終わりの レポート

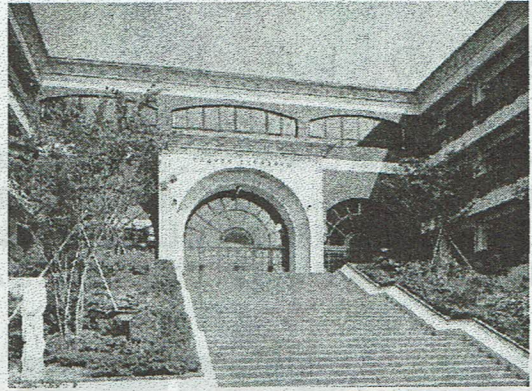
Kathe ケート

十ヶ月前に日本に来ました。初めは、日本は私にとってよその国でしたが、今は私の故郷になりました。そして、いつも私を助けてくださいましたので、ホストファミリーと友達は私の家族になりました。留学した頃はすごく心配しましたが、もうすぐドイツに帰りますので悲しいです。みなさんと離れるのはとてもさみしいです。



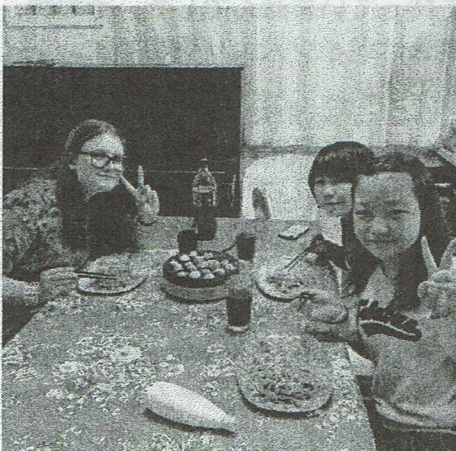
この留学の間にたさんのことを学びました。日本の文化は、ドイツの文化と違うので、とても面白かったです。それどころか日本では、見知らぬ人達でも私を助けてくれます。いつか学校から家に帰る時、雨が降っていたのですが、私は傘を持っていませんでした。その時、知らない女の人が私に彼女の傘を貸してくれました。日本人はドイツ人より親切です。ドイツ人は見知らぬ人達に時々ちょっと冷たくそして不親切です。

日本で規則はとても厳しいです。例えば、私のドイツの学校では、規則が少ししかありません。スマートフォンは授業の間に使ってはいけませんが、それくらいです。でも帝塚山学院 泉ヶ丘高校では、ルールはたくさんあります。ここでは、スマートフォンを使ってものはだめです。お菓子を食べたり、自分の服を着たり帽子をかぶったり、授業のあとで友達とあっても駄目です。すごく厳しいです。それにもかかわらず、私は学校が好きでした。私と同じくらい変で楽しい人達とクラスメートになれて、そして助けが必要な時に、力をかしてくださった先生方に感謝しています。ドイツでは先生と生徒の関係はそんなに親しくありませんので、生徒たちが先生たちを慕っているを見て驚きました。



日本人はいつもベストを尽くそうとしますので、「頑張れ」とよく言います。「頑張って」は日本人にとっても大切な言葉です。
日本人はルールや秩序をととてもよく守るのを見て驚きます。小さい子ども達でも、静かにして、大人しくしています。ドイツの子ども達は日本の子ども達ほど、お行儀よくありません。

また 会えるかどうか分からないまま、大好きなみなさんから離れるという事は、とても難しい事です。でも、この日本での経験のおかげで、私はもっと強くなり、自分に自信もつきました。日本に留学出来て本当に良かったです。



ありがとうございました。

Lucas Kolb

ルーカス

私は8月17日に日本に来ました。八月に日本に空港に着くと、「ああ！こんな大きくて新しい国に私は今から一人だ」と思いました私はあの時、緊張感はなかったけど孤独感を持っていました。あの瞬間に私の留学の生活が始まりました！空港で1時間待っていると、私のホファミリーとロータリアンが迎えに来てくれました。最初の大変な時だったので、迎えてくれた皆の温かい笑顔を私は絶対忘れません。最初に会った人たちが私の留学の生活を大きく支えてくれました。最初、私は日本語をあまり喋れなくて上手くありませんでした。もう10ヶ月日本に住んでいます。私はたくさん知識を貰いました。私の今の日本語の水準は、八月に比べると上手になりました。やっぱり日本はいい国ですね。私の生活に関わってくれる人たちは優しいです。皆はいつも私を助けてくれます。私はそれがほんとうに嬉しいです。私は日本語学だけじゃなく人生のレッスンでもあると、会った人々から教えてもらいました。日本で過ごす10ヶ月間で、私は色々な生活に関わることの認識が変わりました。私は留学中に成功したことがあまりなかったですが、色々な失敗がありました。



人生に関わる事：

私が日本に初めて来てか
喋ったの人の数は分かりま
色々な人と話していると
いストーリーを教えてくれ
ば一人話した人が英語の先
彼は小さい頃からずっとパ
になりたかったが、視力が良
で自分の夢をあきらめなけ
なかつた彼は30歳ごろから



ら一緒に
せん。
色々面白
た！例え
生です。
イロツト
くないの
ればなら
パイロッ

トの夢の代わりにビジネスをやりました。仕事をやっていくうちにだんだん自分は子供が好きなことに気づいたそうです。40歳ごろから「私は英語先生になりたい」という夢をもちました。その夢のために一生懸命に勉強をしていました。もちろん最後に高校の英語先生になりました。英語で話しができるから外国人と話してもできます。彼は先生になってからアメリカに4回頃旅行をしました。英会話の能力があるので多くの外国人と友達になりました。私は彼の人生のストーリーからこれを学びました。「いつでも夢を持って」。

8月に僕の最初の登校日でした。あの日、私はすごく緊張しました。でも日本の学校的生活にはすぐに馴染んでいきました。そしてたくさんの人たちと友達になりました。私は桐蔭高等学校でESS部と茶道部とテニス部に入りました。私が一番良かったクラブは茶道です。

最初に私
ス部に入り
後私の仲良
たちが僕に
を紹介して
の後3週間、
ほ毎日「ル
本巻に楽し
よ！だから



はESSとテニ
ました。2ヶ月
い女の子の友
茶道部のこと
くれました。そ
彼女が私にほ
カス茶道部は
いクラブです
やってくださ

い」と言ってくれました。茶道部は男子にあまり人気じゃないクラブなので女の人の人数が多いです。恥ずかしかったから私はよく考え、やっと私は体験に行きました。茶道部皆さんは優しいです。2回体験した後私は茶道部に入りました。あと数か月間で私はたくさんの人と友達になりました。私は皆から日本茶道の知識と日本語を勉強させてもらいました。今やっている3つのクラブで私は茶道部が一番好きです。もし最初に私が友たちの招待に「いいえ」と言っていたら、私の今までのたくさんの思い出は絶対にできなかったでしょう。

日本の新しい生活

日本に来て色々なことや、アメリカで食わない食べ物に慣れまして来て、私の最大の挑戦は食べる事でした。例えばこの国に来る前にマグことはありませんでした。食べたときは全然美味しかったです。日本料理は色々な食べ物があります。私



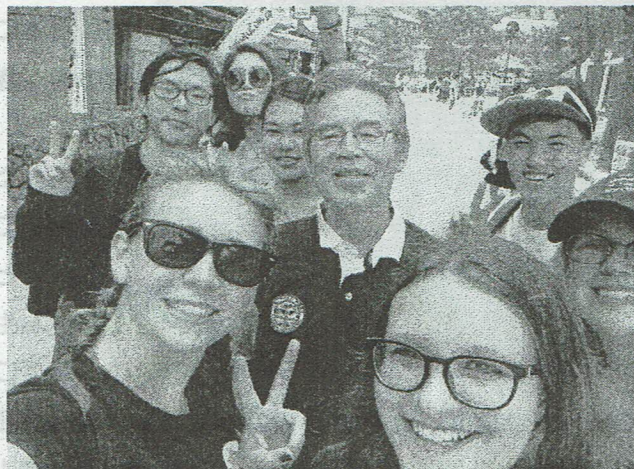
ったことなべたこと。日本に生の食べ物ばマグロ。口を食べた。最初にしくない。たくさん生は、マグロ

を食べるのが好きになった時の事をよく覚えています。9月の最初の水曜日に、私は有田2000ロータリアンと初めて会いました。あの日、私は体育の授業でテニスの練習をしました。だからお腹が空いていました。あの時の私は何を食べても美味しいと感じていたと思います！ロータリーに行く途中に興奮の気持ちでいっぱいでした！「今夜何を食べられるか、待ってられない！」そして、弁当を開けてみると、中の65%の食物が生魚でした。あの時お腹がすごく空いていたからすべての食べ物を食べました。あの日から生魚が好きになりました。

日本に来て面白かった体験と楽しい場所：

私は日本の一番好きな場所は神社です。日本の神社は唯一無二だから、去年留学前にとっても神社に行きたい気持ちが強かったです。この10か月間日本で過ごし、多くの場所に行きました。9月にUSJ。10月に京都、11月に大阪、3月に奈良、4月に神戸、私は大

満足です。2年前から日本語を勉強しているうちに、私は日本の有名な場所に行きたいのと日本の食べ物を食べたいと思うようになりました。私は本当にラッキーです。和歌山県に来て最初に、私は大阪に住んでいる外国人たちが本壺に羨ましかったです。なぜ私の家は大阪から遠い？私は他人留学生よりも不幸だ。和歌山は山をあるし海をあるし冬のミカン畑を綺麗だけど私はやっぱり街に住んでいたいと感じていました。この10ヶ月間、和歌山県で過ごす和歌山の事が本当に好きになりましたは本当にラッキーな留学生です。有田2000ロータリアン、いつも私を手伝ってくれる先生達、学校の友だち、私のホストをしてくれたファミリー。私は本当に感謝しています。和歌山に来ていなかったら、私はこれらすべての人々に会うチャンスがなかったらう。絶対帰ってきます。ありがとうロータリー!!



ポッピー

Anongnart Praisantia

皆さん こんにちは 私はポッピーです。去年の10月タイからきました。今は日本に8ヶ月住んでいます。10月に日本に来て 本当に寒かったです。タイはずっと暖かいので慣れなかったです。

私は日本に来る前にタイの学校で2年間ぐらい日本語を勉強しました。タイで日本語を勉強して、日本語の勉強だけじゃなくて、日本の文化も勉強しました。その時日本語をもっと勉強して日本に来たいと思うようになりました。早く日本語が話せるようになりたいと思いました。やっと日本に来られました。最初日本に来て言葉が理解が出来なかったです。タイで日本語を勉強したけど「足りません!」と思います。色々を話したいけど、色々言いたいことがあるけど、しゃべることが出来なかったです。何回も「大丈夫かな」と考えました。せっかく日本に来たのに頑張りたいと思います。



今私は松原高校に留学しています。初めて松原高校に行って緊張しました。「今から何をすればいいのとか」と思いました。タイ語も話せなくなりました。タイの高校と日本の高校はちょっと違います。タイの高校はバイクで学校に行けますが、日本はバイクがダメです。だから 私は毎日自転車です。そして、タイは毎日、朝礼をしますが、日本はたまに朝礼があります。学校に行って友達と話せませんでした。理解も出来ませんでした。

した。言葉は早いし、大阪弁もあるし、ちょっと困っていましたが。でも今は大丈夫と思います。

私は、学校では好きな科目があります。例えば、書道です。字が綺麗に書けませんが、それでも楽しいです。次は農業。色んな野菜が植えられて楽しいです。次は山田先生の授業のワールドウォッチングです。この授業は色んな国の生活とか、困っている人達とか、勉強できて面白いと思います。

先月、松原高校は体育祭がありました。私は初めて日本の体育祭に参加しました。ほとんどタイと違います。例えば、タイはバスケットボールの試合とか、バレーボールの試合があります。みんなは自分の色の試合を応援に行きます。松原高校の体育祭はくじ引きで、赤、青、黄色、緑の4つの団に分かれて競争します。マスコットという大きな作りものをしたり、応援団を組織して、踊りのうまさを競います。ちょっと違うけれども、どちらも楽しいです。タイでは白いことがあります。生まれた日によって色が決められています。月曜日は黄色です。火曜日はピンク、水曜日は緑、木曜日はオレンジ、金曜日は青、土曜日は紫、日曜日は赤です。私は日曜日に生まれたから赤です。でも、私は青団でした。



友達がいつも優しくしてくれて本当に嬉しいです。私は早く日本語が上手くなるために、毎日自分で日本語を勉強しています。私は日本の春が大好きです。春になると気温が上がって暖かくなります。その時は有名なお祭りがあります。それは花見です。私は桜が大好きです、タイには桜がありません。だから、私は初めて日本に桜を見ました。私はホストファミリーと花見をして、すごくきれいだと思います。たくさん写真を撮りました。そし

て、日本の着物とか、ユカタとか、とても綺麗です。一回、着物を着たいと思います。外国人は絶対着物が好きです。

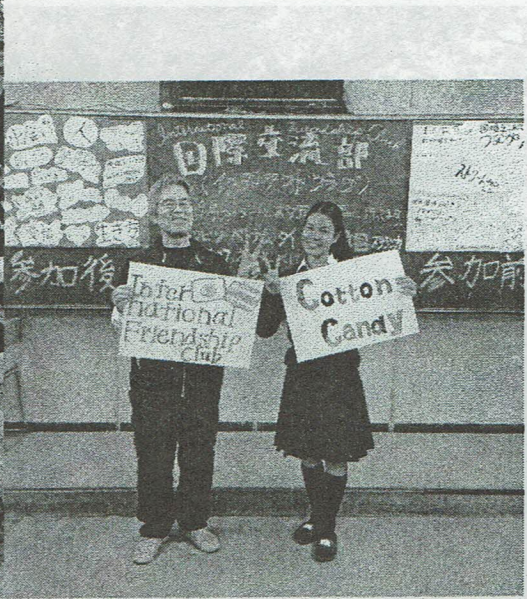


日本人はご飯を食べる前と、ご飯を食べた後は、「いただきます」「ごちそうさまでした」と言いますが、タイは「いただきます」と「ごちそうさまでした」がありません。多分英語もありません。面白い事です。そして、私と友達はいつも「お疲れ」と言います。それはとてもいい言葉です。



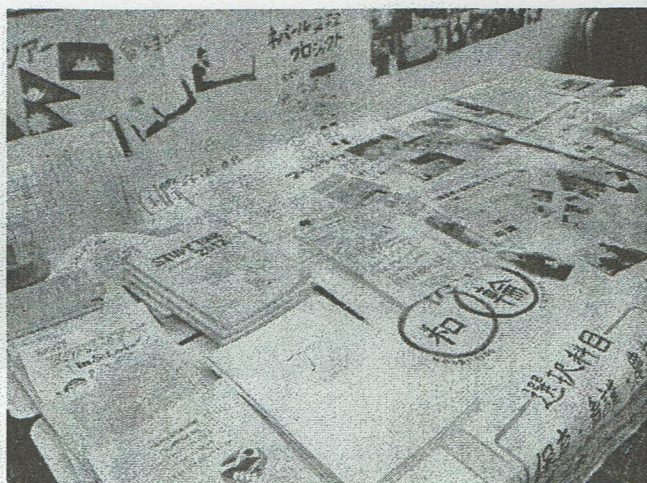


和歌山県、奈良県、三重県、京都府、
兵庫県、広島県、大分県、福島県、富山県
に行きました。どこでも綺麗な街です。私は
京都が好きです。昔の日本の感じがしました。そして、たくさん日本料理を食べました。
好きな食べ物はたこ焼きです。今まで新しい友達がたくさん出来て本当に嬉しいです。私
は8月にタイに帰っても、みんなの事を忘れません。日本に来て本当に良かったです。日
本語を勉強して本当に良かったです。ここに来てみんなに出会えて本当に嬉しいです。



私は日本に来て、たくさん遊びました。今まで、和歌山県、奈良県、三重県、京都府、
兵庫県、広島県、大分県、福島県、富山県 に行きました。どこでも 綺麗な街です。私は
京都が好きです。昔の日本の感じがしました。そして、たくさん日本料理を食べました。
好きな食べ物はたこ焼きです。今まで 新しい友達がたくさん出来て本当に嬉しいです。私
は 8 月にタイに帰っても、みんなの事を忘れません。日本に来て本当に良かったです。日
本語を勉強して本当に良かったです。ここに来てみんなに出会えて本当に嬉しいです。

私はタイの大学で日本語学部を勉強したいと思っています。また 日本に留学したいです。
最後に ロータリークラブに本当にありがとうございました。日本に来てたくさんいい経験
ができました。日本が大好きになりました。ありがとうございます。



今月、住吉高校の体育祭でした。私のチームは白団でした。オーストラリアでも体育祭みたいなイベントがありますが、ぜんぜんちがうです。オーストラリアの体育祭でハードルやリーレイや走り幅跳びや走り高跳びや円盤投げなどのようなスポーツを競争しますが、日本では騎馬戦をします。初めの見る時、とてもびっくりした！乱暴で怖そうと思いました。みんなはひどくけがをしました。私のイベントの方が安全と思いました。綱引きをしました。白団はとてもつよいから、勝ったです。べつのちがいはダンスです。2ヶ月前、グループダンスの練習しておきました。毎日放課後6時まで、みんなはダンスの練習をしました。早くて5分ぐらいから、このダンスはすごいむずかしかったと思いました。上手じゃないけど、楽しみながらしました。友達といっぱい写真をとっていい思い出と思いました。



外国人は多くの点で日本社会とたたかっています。たとえば今夏になりましたから、毎日あついです。オーストラリアの夏にいる間にタンクトップやビキニなどを着ます。でも日本の社会の方が保守的だから、涼しいような服装を選択するのはむずかしいと思います。オーストラリアで裸の腕と肩は大丈夫ですから、とてもびっくりしました。

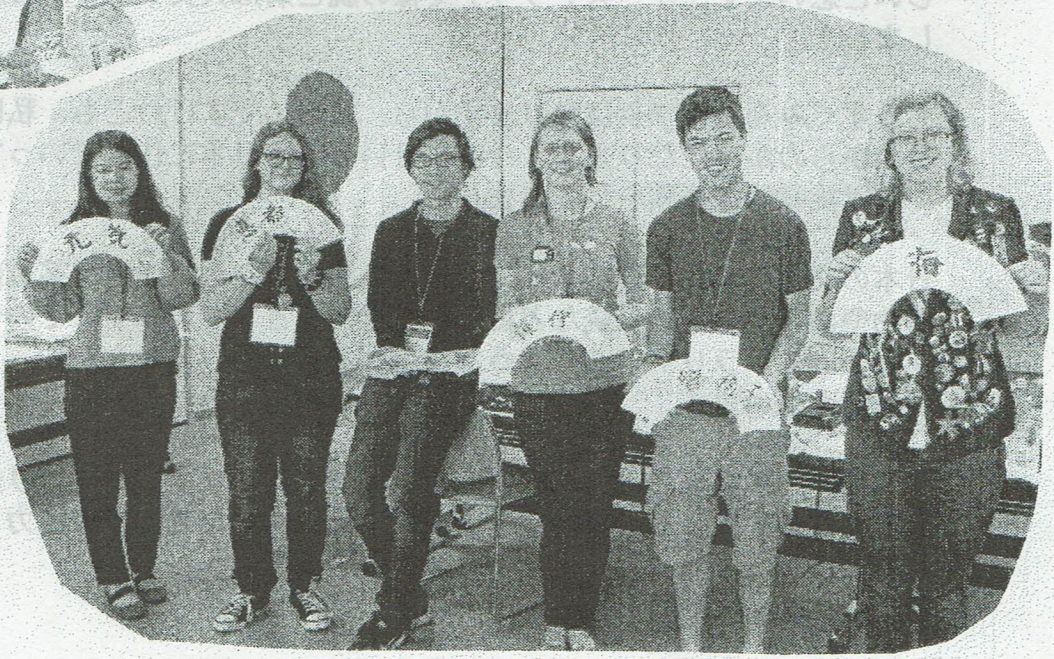
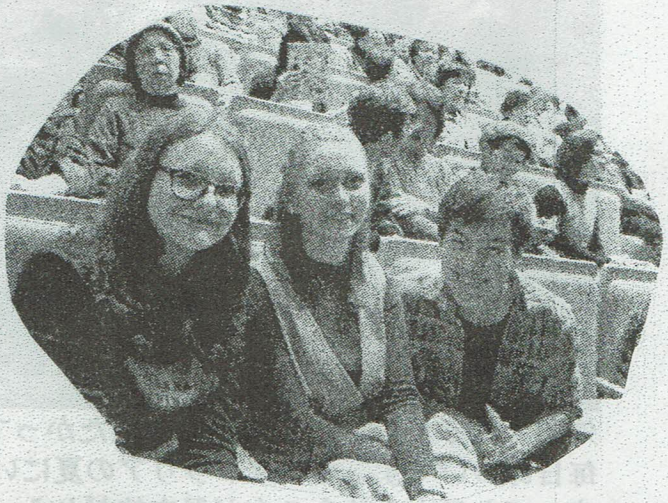
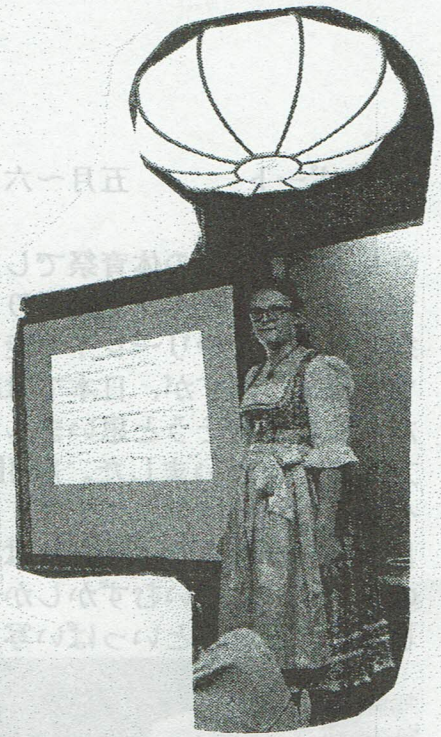
もうすぐみんな留学生は帰りますから、悲しいですけれども、私は今までの経験はこれからのか糧になります。今四ヶ月いじょう日本に住んでいていっぱい面白くて時々挑戦的な経験をしてきました。

日本の文化について学びます。もっと勉強するために学校で茶道部に入りました。着物やお茶や日本の伝統などについて学ぼうとしています。そのテーマが大好きです。オーストラリアでこのような文化があまりありませんから、この勉強はすごい面白いと思います。

私はこれらの経験のほとんどに非常に感謝しています。ロータリーにどうもありがとうございます。私は良き親善大使になるためにひきつづき努力します。



五月一日六日







2640地区 青少年交換委員長

2016-2017年 山田正人

ロータリーの青少年交換プログラムは、とても優れた教育プログラムです。日本全国が34地区に分割されており、その中の2640地区のあるクラブの高校生が、世界のどこかの国の、とあるクラブの高校生を交換する。それぞれの高校生は、相手国で1年間の内に3~4家族のホームステイ家族を経験する。家族関係、食事、家事手伝い、様々な生活様式を学ぶことができる。どの国にもある日常生活の違い(風呂の入浴方法、食材の違い、掃除洗濯のやり方、門限、行動パターンの違い等など)の中にどっぷり浸かりながら、自分自身の価値観の再構築を迫られる。

日本人の学生は、この17年間ほどの中で自分がいかに両親に支えられて生きてきたのかを知る。関わってくれる周囲の人の中に素晴らしい人たちを発見する。本気モードのロータリアンの方々、献身的に協力してくれる先生方、親友と呼べるようになるほどの友達、思いもかけずサポートしてくれる近隣の人たちと出会うことになる。人は人の輪の中で育つ。

人生の中のほんの10か月だが、何にも代えがたい貴重な時間だ。たとえ表面的にしか物事を見ることができなかった人でさえも、記憶の中に蓄積されていく数多くの体験が「気づき」をもたらす。その後の人生を $y=x$ の平凡な直線を描かずに、 $y=5x$ とか $y=x^2$ のような考えもつかない未来を歩むことになる。それが、この青少年交換プログラムで出会った高校生の成長を見て、私が思うことである。

私たち大人は試されている。本当に彼らの成長を願い、彼らの未来に貢献できるような影響を与えることができたのか。

受入留学生の生徒の皆さんへ。帰国して自分自身の体験を振り返り、自分の未来をどう選択していくことにしたのか決意を知らせてほしい。新たな目的や目標ができたのか、知らせてほしい。みなさんが、本気で、日本とその国の親善大使となって活躍する人生を、楽しみに待ち続けたいと思う。

日本語能力試験の1級までとって、この文章を、自国の言葉に翻訳して、私に返事を書いてください。いつか共に行動することができたらと思います。皆さんのこれから活躍を心から祈っています。

派遣学生の皆さんは、「意識を変える」旅にしてください。「何の為に・誰の為に」を問い続けることで、自分なりの人生の目的を見つけてください。

2017. 6. 18

P. S. チェイス君とソフィアさんの文章が間に合いませんでした。2人の「振り返り」がいつか送られてくることを期待しています。

